

# リニア着工を許さない！沿線住民怒りの集会

5月17日 ぴゅあ総合(山梨県男女共同参画センター)に150人が結集



山梨実験線の延伸工事、真下に民家が

## リニア沿線住民は一致してあらゆる手立てを用いて着工を阻止しよう！

山梨県側のトンネル工事でJR東海が工事のための入札手続きを始め、中心線測量などの実施を画策する中、5月17日(日)午後、山梨県甲府市のぴゅあ総合(山梨県男女共同参画推進センター)で、「リニア着工を許さない～沿線住民怒りの集会」が開かれました。主催はリニア・市民ネット山梨で、リニア新幹線沿線住民ネットワーク、リニア中央新幹線研究会(山梨)、リニア新幹線沿線住民懇話会(山梨)、中部横断道八ヶ岳南麓新ルート沿線住民の会が賛同団体となりました。会場には山梨県内だけでなく、沿線住民を中心に、東京、神奈川、静岡、長野、大阪から合わせて150人が詰めかけました。

集会はリニア・市民ネット山梨の川村晃生代表の開会あいさつのあと、『悪夢の超特急リニア新幹線』(旬報社)の著者でジャーナリストの樫田秀樹さんが「住民運動とリニア」というテーマで講演しました。休憩を挟んで、長野県大鹿村のグループによるコントが披露され、会場から喝さいを浴びました。そのあと、沿線グループから地元でのJR東海の動きや活動について報告があり、最後に集会宣言を採択し、リニア着工阻止に向けた決意を新たにしました。

## 着工を一日でも十日でも一カ月でも知恵を絞って行こう！・・・挨拶 川村晃生さん

リニア新幹線は住民の理解が得られないまま着工されようとしています。現在、私たちリニアの住民グループは16団体に増えました。実験線ができた段階では私たちリニア・市民ネットだけでしたが、大きく運動は広がりました。今日の集会のように、共通の課題についてグループが集まって、JR東海や国土交通省に対しどう向き合えばいいのかを話し合う機会を持つことが重要です。個々でやれば孤立しますが、私たちはこれだけ多くの同じ志の団体があるんだと言うことを肝に銘じ、情報を共有しながら、これからリニア阻止に向けた運動を展開して行かなければなりません。JR東海はアセスはすべて終わったとして何が何でも着工するんだと意



気込んでいますが、私たちは出来る限りそれに待ったをかける方向をそれぞれの地域で考え、一日でも十日でも一カ月でも着工を遅らせるため、知恵を絞ってJR東海に対峙しましょう。

私たちリニア・市民ネットはその一環として、中央市のリニアルート直下で立ち木トラストを始めました。380本の桑の木の本一本を個人に所有していただき、山梨県内で200、県外で180本の募集をしたところ、応募数がその数を超える状態になっています。着工阻止が私たちの共通テーマです。今日の集会で皆さんが情報を共有し、あるいは関わりを強めて行く機会にしたいと思います。

## リニア反対の住民運動を広げ、更に大きな活動の展開・・・講演 梶田秀樹さん



(実験線再開日の抗議行動)

一昨年の8月29日、JR東海は20年ぶりに、走行実験を再開し、大月市のリニア見学館のホームで出発式が行われ、私も取材しました。JR東海の葛西会長(当時)や大田国交大臣、山梨県知事が出席し久寿玉を割って実験再開を祝いました。全国から多くのマスコミが駆けつけ、ホームは溢れんばかりでした。彼らの目当ては、当日デビューするリニアの営業用車両「L0系」に体験乗車できることでした。一方、出発式会場の外ではリニア沿線住民50人ほどが「南アルプスの自然を壊すな」などの横断幕を掲げ実験再開反対の声を上げていました。多くのマスコミ

はリニアに反対する住民運動の存在に驚き、すぐ取材を始めるカメラや記者もいましたが、多くはそのまま通り過ぎて行きました。私は記者の一人に「JR東海がスポンサーの関係でリニアを取り上げないのか？」と質問しました。「いや、私たちは何でも取り上げるが、上に行くとは取り上げない」という答えでした。実際、翌日の紙面で小さく住民団体の抗議行動を取り上げたのは山梨日日、信濃毎日、赤旗くらいでした。

JR東海はこれまで説明会で「リニア新幹線の環境委与える影響は環境基準や国際的なガイドラインを下回っている」と言い続けています。一方で、JR東海、研究者、住民、自治体が一堂に会して賛成・反対を議論する公聴会は一度も開かれていません。やはり、住民運動をやることでしかリニアは止められないと私は思います。

山梨の実験線の工事でも様々な問題が起きています。上野原市秋川の沢に行くと工事で沢の水が枯れていました。2004年当時は水が流れ、イワナもいたという話でした。JR東海は2007年に「自分の金でリニアをつくる」として、実験線の延伸工事を始めました。そして、秋川の沢水が消えました。その場所は集落の簡易水道の水源になっていました。JR東海は井戸を掘って電気を使って集落に水を引きましたが、それは30年間だけで、

その後は電気代などは住民が負担することになります。はかにも天川の水が枯れました。トンネル工事で地下水が噴き出した結果そうなったわけで、JR東海は出水をタンクローリーで上流に運び、水路を造って水を天川に戻しています。これも30年間、けの措置だそうです。もちろん、水枯れはリニア工事にかぎったことではありません。どんなトンネル工事でも見られます。リニアは品川～名古屋のほとんどがトンネルですから、沿線のどこでも山梨と同じような異常出水や水涸れが起きます。



(地下水を天川に戻す)

リニア工事のもう一つの問題は残土です。実験線の残土は笛吹市の谷をリニア残土で埋めている。リニアをあてこんで住宅地を造成する計画でしたが、なかなかリニア工事が始まらないので、今はただ谷を埋める処分地となっています。

リニア中央新幹線の実験線誘致が行われた1989年8月、最初の住民運動が生まれました。当時反原発活動をしていた上野さんという方が呼びかけて「市民によるリニア実験線検討委員会」がつけられ、当時30代の懸樋哲夫さんもそこに参加しました。その後住民運動は少し静かになりました。JR東海は2010年までには東京から大阪までリニアを走らせると考えていましたが、工事は一向に始まらなかった。実験だけが細々と続いていた。理由は単純です。JR東海は国のお金でリニアを造らせたかったが、国としては整備新幹線として、北陸や九州、北海道などの5つの新幹線を開業させることが決まっており、それを飛び越してリニアを造るわけにはいかなかったわけです。そのためJR東海は2007年になって自費でやることを表明しました。それで反対の住民運動に火が付いたんです。山梨ではリニア反対の人たちが再び集まって、2009年に川村晃生さんを中心に「リニア・市民ネット」を結成しました。JR東海には4つの労働組合がありますが、いちばん小さなJR東海労働組合が勉強を重ねてリニア建設反対を表明しました。

そして、2011年5月にJR東海にリニア新幹線の事業認可が下り、9月に環境影響評価方法書（環境影響評価手続きや環境保全措置を大まかにまとめたもの）という初めての公式文書が出され、沿線各地でJR東海による説明会が行われました。そこに参加した住民がリニア新幹線に疑問を持ちました。説明会のやり方もひどかった。質問に対しては具体性の無い回答ばかりで、再質問は認めない、時間が来れば打ち切りという具合で、火に油を注ぐ結果になりました。そこから、東京・神奈川連絡会、相模原連絡会、大鹿村N



O! 連絡会、飯田の会、東濃リニアの会などの住民団体が続々と生まれました。そして沿線全体でネットワークを組もうということで、2013年2月に、こうしたグループが集まって「リニア新幹線沿線住民ネットワーク」が結成されます。当時の加盟団体は6でしたが、今や、東京、愛知、静岡、大阪などをふくめ15団体に増えています。

**（大井川上流部、土砂崩れが）** JR東海からは、方法書に続いて2013年秋、環境影響評価準備書が示されました。私は内容が方法書と変わらないのでびっくりしました。とくに驚いたのは静岡県あての準備書です。リニアは静岡県の最北部を僅か11キロのトンネルで通過する計画ですから、県民の関心は無かったんです。それが、JR東海の説明や準備書で、大井川源流部のトンネル工事で大井川の水が毎秒2トン減ることが分かり、自治体の首長さんたちも住民も驚き怒りました。そのことがきっかけで「南アルプス、リニアを考える静岡県民ネットワーク」とか、「リニア新幹線を考える登山者の会」、「リニア市民ネット大阪」などのグループが生まれました。

牧之原市の西原市長は、公聴会に出席して公述人になり、「リニアは静岡県最北部を通るが、駅も関連施設も出来ない。できるのは資材を入れ残土を出す非常口だけだ。牧之原市はじめ大井川流域の7市2町には準備書も送られていないし、もちろん住民説明会も行われていない」、「どれだけの思いで流域の住民が大井川を守ってきたか！大井川はダムだらけになったが、それでも必要な水は確保してきた。少ない水でもそれを取り戻すためには十年、二十年が必要だった。それなのにいきなり毎秒2トンも減るといふのはどういうことか！」などと怒りの公述をしました。そして西原市長は、「このまま納得できる説明がないなら、私は住民を巻き込んで署名でも何でもやる」とまで言いました。

静岡の人たちがいま一つ怒っているのが残土です。JR東海は大井川の河原に近い6カ所に残土置き場をつくります。もう1カ所は標高2000メートルの扇沢ところで、標高1500メートルの非常口から出る残土を、トンネルを掘りベルトコンベアでそこまで持ち上げる計画です。静岡県の環境問題の専門家は「扇沢に残土置き場をつくれれば山が崩れる可能性がある」と指摘しており、県知事も意見書で計画の撤回を求め

ました。ところが、JR東海は地元の声を全く顧みず、環境影響評価書で当初の計画を盛り込み、それが国に認められてしまいました。1年前、地元の方の案内で私は大井川の燕沢(つばくろさわ)に行きました。その河原に延長1キロの残土置き場ができるという。付近の砂防ダムは日常的に崩れています。そんな場所に残土置き場をつくっていいのかと思います。

私が住む神奈川県ですが、相模原市にリニアの車両基地ができます。鳥屋という地区ですが、その谷戸自治会に高さ30メートルの車両基地の擁壁ができることになっています。巨大な壁が景観を台無しにするし、すぐ脇には小学校もあるんです。また、車両基地によって40戸以上が立ち退きを迫られ、地域が分断されます。



このほか、大鹿村は一日1736台の工事車両で村の平穏な生活や自然が大きな影響を受けますし、川崎など都市部ではリニアの大深度トンネル工事で地下水や地価(谷戸自治会の看板)の下落の心配があります。車両基地は岐阜県中津川市にもつくられます。

東濃地区には日本最大のウラン鉱床がありますが、そこをリニアのトンネルが通ります。JR東海は「ウラン鉱床は通らない」と説明していますが、私が日本原子力研究開発機構に聞いたところ、「ウラン鉱床があるかどうかは掘ってみないと分からない」という答えでした。もし、トンネル工事がウラン鉱床に当れば、非常口から放射性物質を含む残土が出てきます。ウラン鉱床からはラドンガスが出て、それが肺がんの原因になります。東濃地区には現在もウラン残土の山が残っており、年間1ミリシーベルトの放射能を出し続けています。もし、ウランを含む残土が出てきたらどうするのかをJR東海に聞いたところ、「福島原発事故後の汚染がれきの処理方法を参考にします」という答えが返ってきました。この時のやり取りで私はJR東海からこれまで取材拒否を受けています。

ここからはリニアの住民運動の課題についてお話しします。先ほど紹介した相模原市の谷戸自治会は「リニア新幹線の車両基地建設絶対反対」という立て看板を掲げています。しかし、住民にはいろいろな考え方があり、リニアについて温度差があります。「お上のやることだから反対してもしょうがない」という人も沢山います。また、リニアについて問題点を追及したり反対している住民運動があることを知らない人も多い。ほかにもリニアについて闘っている人がいるんだということを知らせる必要があります。私がこれからの運動について思うことが幾つかあります。

- ①沿線の各地域を結ぶコーディネートする役割を果たすこと。
- ②インターネットを活用すること。リニア沿線ネットのグループでホームページを持っているところはほんの僅かです。今の時代、インターネットの活用、とりわけホームページをつくらないと損です。
- ③JR東海に対し毅然たる姿勢で臨むこと。これまでJR東海の説明会に何回も出ましたが、皆さん、おとなし過ぎます。住民団体がおとなしいところから着工されます。どこかの説明会で、JR東海の説明会に対し住民から「いい加減な説明では納得できない。今日の説明会は無かったことにする」と詰め寄った住民がいました。それぐらいの勢いがあるといいのでは。
- ④リニア・市民ネットが立木トラストをやるということですが、愛知万博のときも当初の会場が自然豊かなところであったため、「環境万博というのに自然を壊すのか」として、人々が立木トラストをやって、会場は別の場所になった。有効な手段だと思います。それに、確実に運動に参加しているという意識になりますから。
- ⑤いま私が取材している江戸川のスーパー堤防の住民運動の話をしたと思います。

スーパー堤防というのは、現在の幅6メートルの堤防では洪水で決壊する危険があるので、それを300メートルに広げようというもので、完成には300年かかると言われています。江戸川のスーパー堤防建設地では多くの方が立ち退きましたが、最後まで抵抗している方もいます。立ち退きに応じた人は、戸別

訪問・個別撃破でやられたのです。最後まで立ち退きに抵抗している方は大変厳しい状況に追い込まれています。リニアでそうした状況になった場合、皆さんのような住民団体がその当事者をどれだけサポートできるのかを考えていただきたい。

最後に、大阪府摂津市が提起した訴訟の話をします。

摂津市にはJR東海の東海道新幹線の車両基地があります。

1964年の東海道新幹線開業時に出来ました。国鉄時代に基地内に井戸を掘ったため、摂津市の隣接地区で最大46センチの地盤沈下が起りました。そこで、国鉄と市の間で環境保全協定を結び、井戸は掘らないことになりました。ところが、地内で井戸を掘りはじめたことが分かりました。車両を洗うの



に水道水を使うと年間1億円の水道代・電気代がかかりますが、井戸ならばその半分で済むそうで、リニアのための節約策ではと見られています。摂津市長は環境保全協定は生きているとして、JR東海関西支社長に面会を求めましたが、「当社にはそういうシステムがない」と拒否されたそうです。市長は「どんな大企業だって首長との面会は拒否しない」と怒って、昨年11月にJR東海を相手取って訴訟を起しました。市長は述べたそうです。「私たちが何よりも守るべきは住民の生活です」と。リニア沿線の自治体首長は見習ってほしいですね。摂津市民も3万5千筆の署名を集めて市長を支援しています。リニア新幹線着工阻止に向って、皆さんもあきらめないで、今やるべきことをやって下さい。

## 山梨の参加者の報告

### 「自宅上にリニアの橋脚が・・・」(甲府市Hさん)

2年前に山梨に来て、家を探して不動産業者にこの場所はリニアと関係ないのかと聞いたところ、大丈夫ですよということなので1年半前に越してきた。ところが、リニアが私の家の北側を通ることが地元の説明会で分かった。実実験線も3年前に見に行ったが、真下に家があったので、どうして転居しないのか不思議だった。自分がその立場になった。JR東海はルート幅22メートル外は補償しないので、その家の人は転居できないと知った。私の家から4メートルのところの高さ40から48メートルの橋脚ができるという。自治会の総会が3月にあったが、私は反対だと言った。リニアのあかり部分はフードが付けられるというが、大丈夫かと聞いたら、自治会長は、どこもフードを被せると決まっているから心配ないという返事だった。でも、黙っていたら被せないかもしれないので、改めて言うべきだと思う。実際、実験線ではあかり部分の騒音が220メートル離れた幼稚園で測ったら60デシベル以上だった。私は最後まで反対するが、自治会では賛成派も反対派も自由にものを言える雰囲気であってほしい。また、県には、平穏な生活を保障しろと言いたい。

### 「許せないJR東海の傲慢・・・」(中央市Uさん)

JR東海のあまりにもふざけた説明に抗議して中央市リニア対策市民の会を立ち上げ、JR東海の甲府事務所に5月15日申し入れを行った。申し入れに対するJR東海の傲慢さは許しがたい。名刺をくれと言っても「お渡ししないことになっている」とか、申し入れ書の受領書を下さいと言えば、「受領書をお渡しするシステムはありません」という。私も態度はデカイほうだが、JR東海の方が傲慢だ。別に申し入れ書を内容証明で郵送しようかと思う。同じ日に中央市山梨県用地事務所に行ったら、「JR東海から金をもらって県が用地交渉をする」という返事だった。10数億もらっているらしい。私たちは中央線測量について強く抗議した。

## 「庭がリニアにかかると庭木の立ち木トラストをしようかと」・・・南アルプス市Nさん

家の柱2本と庭全部がリニアの計画線にかかる。JR東海は真下の場合は移転、少しかかる場合は改修もしくはそのまま居住という方針という。我が家の場合は殆んど真下なので改築しそこに住まなくてはならない。近所の人は南側をリニアに取られて、北側には道路が無いので工事中は自宅に入れなくなる。2月1日と15日に地域説明会と自治会説明会が行われたが、JR東海の説明内容が違った。1日には「住民の理解を得てから中心線測量に入る」と説明したが、15日の説明会資料では「住民の理解を得てから」という文言が消えていた。中心線測量をOKした自治会もあるが、私たちの自治会では、中心線測量の協力文書をJR東海に突き返した。山梨で立ち木トラストをすると聞いたが、リニアにかかる我が家の庭にも木があるので、立ち木トラストに提供したい。

山梨県は70億、80億も出して残土置き場をつくったり、甲府リニア駅の近くの3ヘクタールの土地も提供するという。既成の事実をつくらせないようにすることが重要だ。インターネットのフェイスブックに「リニアを考えようコミュニティー」があるので、皆さんもアクセスして下さい。

## 大鹿村の皆さんのコント・パフォーマンスに拍手喝采

集会で、榎田さんの講演の後、大鹿村のNO！リニア連絡会の皆さんが中心になって、ラップとコント『リニアは理に合わない』を披露しました。現在24時間行われているJR東海の水平ボーリングの理不尽さを素晴らしい演技力で紹介し、会場から拍手喝采を浴びました。



以上

(集会報告文責 天野捷一)